



武蔵村山市
まち・ひと・しごと創生
総合戦略 [概要版]
平成27年度～平成31年度

平成28年3月
武蔵村山市

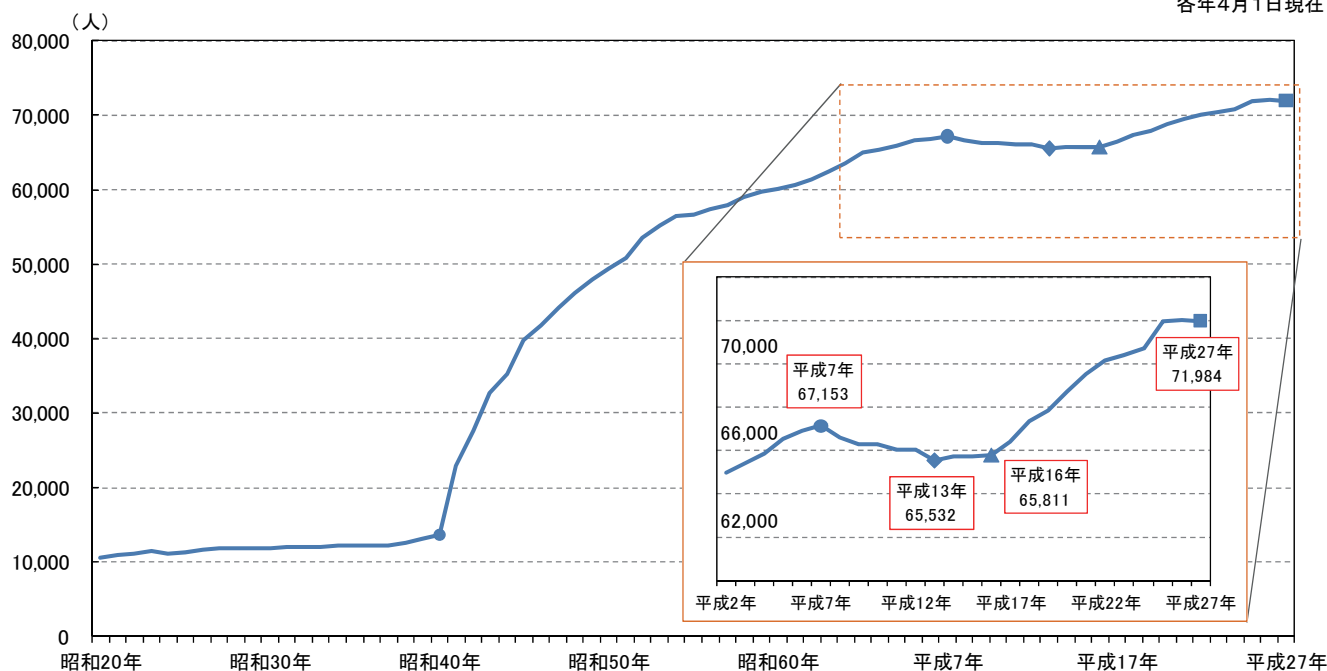
武蔵村山市の現状

(1)人口

71,984人 (平成27年4月1日)

本市の人口は、昭和40年代に都営村山団地の建設等により大きく伸び、平成7年頃まで増加が継続しました。その後、緩やかに人口が減少してきましたが、平成16年以降、市内での宅地開発が進んだこと等により人口が再び増加に転じ、最近の10年間では約6,000人増加しています。

人口推移: 昭和20年～平成27年



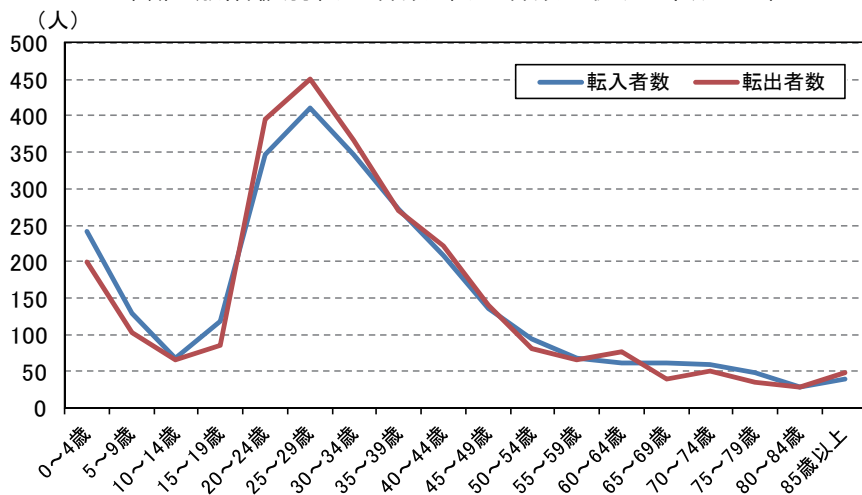
出典: 武蔵村山市統計書(住民基本台帳)

(2)転入者数・転出者数

転入者 2,740人 転出者 2,719人 (平成26年)

平成26年の転入者数・転出者数を見ると、転入・転出ともに20～30歳代が多く、この年代は転出超過傾向にあります。また、0～9歳の転入・転出が比較的多いことも特徴であり、この年代は転入超過傾向にあります。

年齢5歳階級別転入者数・転出者数の状況: 平成26年



転入超過・転出超過とは

転入者数が転出者数を上回る場合を転入超過、転出者数が転入者数を上回る場合を転出超過と呼びます。

出典: 住民基本台帳人口移動報告

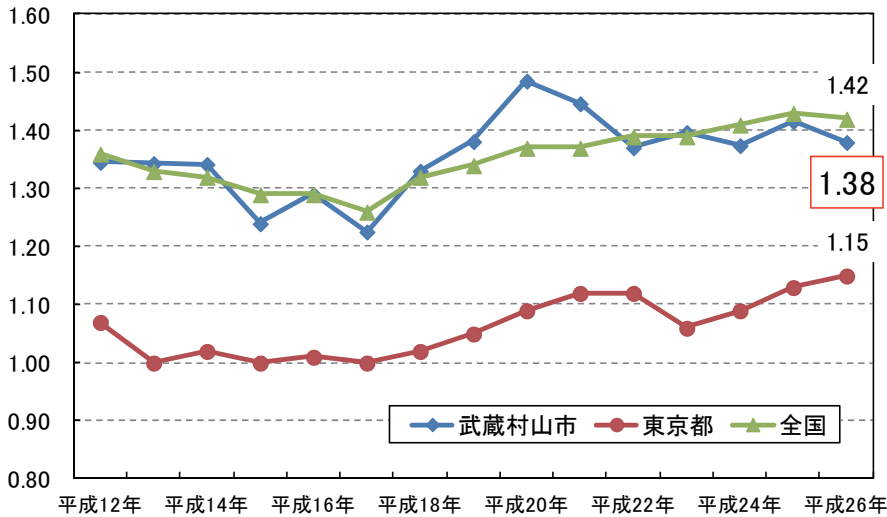
(3)出生率

1.38

 (平成26年)

合計特殊出生率は東京都よりも高い水準にあり、全国平均とほぼ同程度の数値です。合計特殊出生率は一人の女性が一生の間に産む子どもの数とみなすことができるため、本市における女性一人当たりの平均出生数は1.38人と捉えることができます。

合計特殊出生率の推移：平成12年～平成26年



合計特殊出生率とは

1年間における15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値。一人の女性が一生のうちに産む子どもの数に相当します。

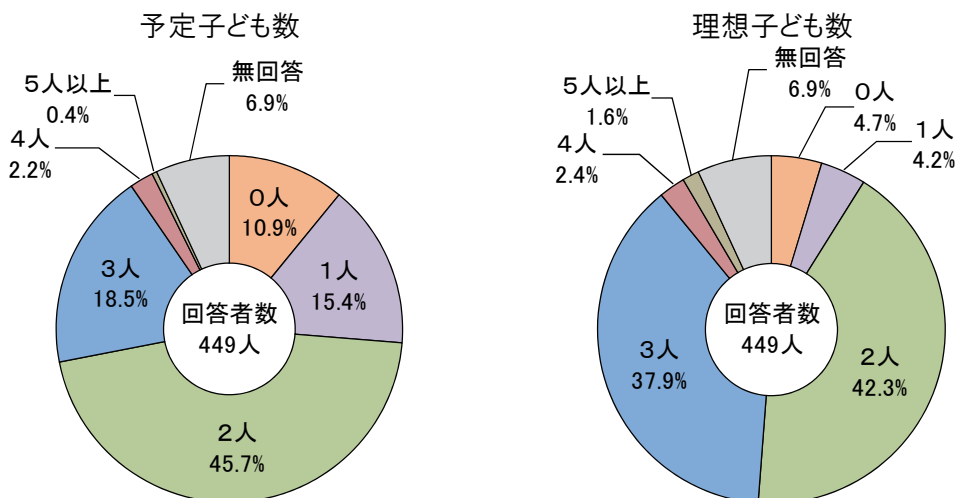
平成12年 平成14年 平成16年 平成18年 平成20年 平成22年 平成24年 平成26年
出典：東京都人口動態統計

(4)出産に対する意向

予定子ども数 1.86人 理想子ども数 2.36人

 (平成27年調査)

20～49歳までの市民が最終的にもつつもりの子どもの人数(予定子ども数)は、2人という回答が最も多くなっています。また、理想の子ども的人数(理想子ども数)も、2人という回答が最も多くなっていますが、3人と回答する市民が4割近くいます。そのため、予定子ども数は、理想子ども数と比較して0.5人少なくなっています。



出典：結婚、出産、子育てに関する意識調査

結婚、出産、子育てに関する意識調査とは

人口ビジョン・総合戦略を策定するに当たり、武蔵村山市内に住む20～49歳までの方2,000人を対象としてアンケートを実施しました。

武蔵村山市の今後

(1)人口の変化が地域にもたらす影響

現在、本市の人口は増加傾向にあります。転入・転出状況や出生数がこのまま推移すると平成42年を境に減少に転じることが予想されます。高齢化が進み、行財政への影響が見込まれるほか、生活環境や都市インフラへの影響も懸念されます。

行財政への影響

高齢者の増加による社会保障費の増加、生産年齢人口の減少による税収の減少から、財政状況の悪化が懸念されます。

生活環境への影響

空き家が増加し、住環境に悪影響を及ぼす恐れがあるほか、公共交通など市民生活に大きな影響が出るのが考えられます。

都市インフラへの影響

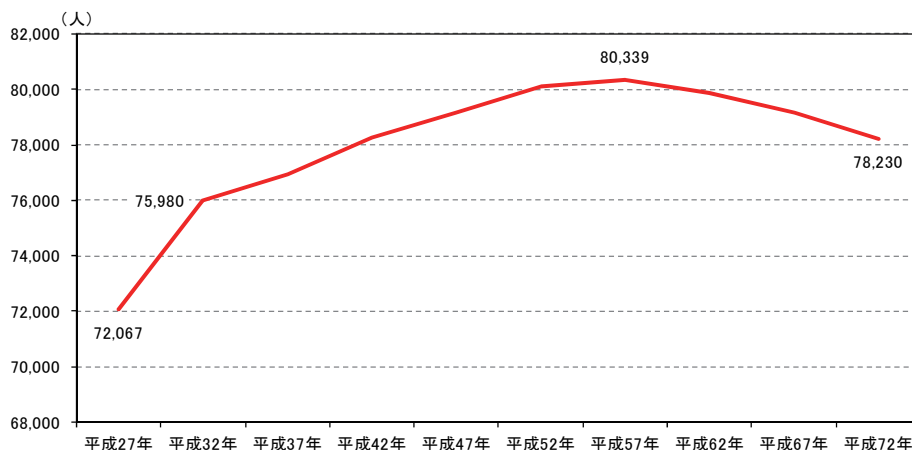
財政状況の悪化により公共施設等の適切な改修・修繕が難しくなり、統廃合や配置の見直し等を視野に入れることも必要になると考えられます。

(2)人口の将来展望

人口減少・少子高齢化による影響に鑑み、本市の自然環境や住環境、住宅条件の良さを活かして転入の促進や出産・子育ての支援を行うことで、合計特殊出生率が向上するとともに、市内への人口流入を増進・維持することが求められます。

そこで、本市の人口の将来展望は平成57年まで人口が増加し続け、約80,000人をピークとして緩やかに減少し、平成72年には約78,000人となります。

人口の将来展望



人口の将来展望に当たって

- 合計特殊出生率は、平成37年までかけて1.9まで上昇する
- 平成32年まで転入増・転出減が進んだ後、平成67年までかけて転入出が落ち着く

人口推計とは

各年代の転入・転出状況や出生率のデータに基づいて将来的な転入者数・転出者数・出生数を仮定し、それら仮定値を用いて各年代の人口の変化を算出し、将来人口を予想する方法です。今回の人口の将来展望では、国の機関が提示した武蔵村山市の平成27～32年の転入・転出状況、出生率の仮定値も用いて人口推計を行いました。

(3) 目指すべき将来の方向性

人口の将来展望を踏まえ、社会の担い手である生産年齢人口及び将来の担い手となる年少人口の増加を図るため、3つの視点に基づき、平成27～31年度における武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を掲げます。

視点1 本市への来訪者の増加を図る

本市の魅力をPRするとともに、多摩都市モノレールの延伸を見据えた魅力あるまちづくりや利便性の高い公共交通網の形成を進めることで、市に訪れる人(交流人口)の増加を図ります。また、交流人口の増加を、市内消費の促進による商業活性化につなげるほか、定期的な来訪、さらには移住・定住に結び付けることを目指します。

基本目標1 まちの魅力を向上させ、 新たな人の流れをつくる

観光や就業などで市外から本市を訪れる交流人口を増やし、本市の魅力を周知することで将来的に定住へとつなげることを目指します。そのため、市の魅力を発信する広報戦略、「しごと」の創出、観光施策の推進、多摩都市モノレール延伸の促進などを進め、地域の活性化と魅力の発信に努めます。

視点2 年少人口及び将来的な 生産年齢人口の増加を図る

若い世代が結婚し、市内で家庭をもち、子どもを産み育てることができるようにすることで、年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図ります。そのため、地域の実情に即し、結婚・妊娠・出産・育児をしやすい地域づくりに向けた環境整備を推進します。

基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての 希望をかなえる

本市では、若年世代の大半が2人以上の子どもを産み育てたいと希望しています。その希望をかなえることが少子化及び人口減少の克服につながることから、結婚から出産、子育てまでを一貫して支援し、さらには子育てと仕事の両立を図ることで、子どもを産み育てやすいまちづくりを進めます。

視点3 住み続けたいと思う まちづくりを進める

世代にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で、地域社会の担い手として、健康で文化的な生きがいをもって暮らせる生活環境を実現することで、住み続けたいと思うまちづくりを推進します。そして、定住のみならず、次世代へと住み継がれるまちを目指します。

基本目標3 時代にあった地域をつくり、 安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

誰もが本市に住み続けたいと思うためには、健康で豊かな暮らし、安心して過ごすことができる暮らしを実現することが大切です。個々人の健康増進のみならず、地域コミュニティの強化・活性化を図ることにより、防災・防犯における共助や地域福祉の拡充はもとより、日常的な暮らしやすさの向上を目指します。

総合戦略での取組

基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たな人の流れをつくる

- 1 戦略的な情報発信
- 2 創業を希望している市民への支援
- 3 産業の振興と雇用の促進
- 4 時代のニーズに対応する農業の創造
- 5 個性豊かな観光施策の推進
- 6 利便性の高い公共交通網の形成
- 7 にぎわいと活力のあるまちづくり

基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 1 婚活への支援
- 2 子どもとお出かけしやすいまちづくり
 - (1) 子育て情報の提供
 - (2) 子どもとの快適な外出
 - (3) 親と子の居場所づくり
- 3 子育て、子育てと子ども家庭の支援
 - (1) 子育て・子育ての支援
 - (2) 妊娠から出産、育児の切れ目のない支援
 - (3) 子どもの安心・安全の確保
 - (4) 子どもの貧困対策の推進
 - (5) 子育てと仕事を両立する環境づくり
- 4 子どもの知力・体力の向上
- 5 教育環境の整備

基本目標3 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- 1 生活利便性の高いまちづくり
- 2 安心して暮らせるまちづくり
- 3 健康でいきいきと暮らせるまちづくり
- 4 住み続けられるまちづくり



広報戦略（シティプロモーション戦略）の策定 武蔵村山の魅力教え隊の活用	SNS等による広報手段の充実
創業支援の推進 ウィメンズチャレンジプロジェクト	空き店舗活性化事業への支援
（仮称）産業振興ビジョンの策定の検討 企業誘致制度の拡充（新青梅街道沿道） 企業誘致制度の周知（雇用促進奨励金） 工業地域における道路整備の推進	地域ブランド認証事業の実施 村山大島紬の振興 ウィメンズチャレンジプロジェクト【再掲】
観光農園等のPRの実施 体験型市民農園の開設	援農ボランティア制度の実施
村山温泉「かたくりの湯」周辺を核とした交流エリアの形成 広域的観光ルートの設定 観光PR映像の制作 武蔵村山の魅力教え隊の活用【再掲】 フィルム・コミッションの研究・検討 観光マップの作成	文化財の観光資源としての活用 市民まつり（村山デエダラまつり）の開催 観光納涼花火大会の開催支援 ひまわりガーデン武蔵村山の開園 ウォーキングイベントの開催支援 グリーンヘルパー制度の充実
多摩都市モノレール延伸の促進	市内循環バス路線の検討
新青梅街道拡幅用地の確保 新青梅街道沿道の用途地域等の変更及び地区計画の策定	企業誘致制度の拡充（新青梅街道沿道）【再掲】

婚活イベントを行う団体等への支援	
子育て情報サイト運用事業	
移動式赤ちゃんの駅貸出事業	
児童館の子育て支援拠点化の推進	絵本の読み聞かせ事業（絵本読み聞かせ「わくわくタイム」・おはなしの会）
保育コンシェルジュ事業の実施 延長保育の充実	休日保育の充実 病児・病後児保育事業の実施
（仮称）子育て世代包括支援センターの整備	
子ども・乳幼児のための防災用品備蓄事業 予防接種情報システム導入事業	放課後子ども教室の充実 放課後子ども総合プラン事業の推進
子どもの貧困対応プランの策定	
市民、事業所におけるワーク・ライフ・バランスの推進	男性市職員の育児休業の取得促進
小・中学校特進講座 市学力調査の実施	英語検定の実施 部活動支援事業の実施
小中一貫教育の推進 特別支援教室の設置	教育相談室事業・スクールソーシャルワーカー事業 スクールカウンセラーの配置 適応指導教室事業の実施

乗合タクシーの運行 多摩都市モノレール延伸の促進【再掲】	市内循環バス路線の検討【再掲】
災害対策用備蓄物資の計画的な購入 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施 マンホールトイレの設置 避難行動要支援者個別計画の策定	地域みんなでまちづくり会議及び職員地域担当制の充実 （仮称）協働推進プランの策定 無作為抽出を活用した市民参加制度
健康教室の実施 医師、保健師等による健康相談の実施 ゲートキーパーの養成	地域スポーツ活動応援事業 総合型地域スポーツクラブの運営支援 スポーツ少年団の運営支援
在宅医療・介護連携支援センターの設置	生活支援コーディネーターの配置



武蔵村山市

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略[概要版]

発行年月／平成28年3月

発行／武蔵村山市

編集／武蔵村山市企画財務部企画政策課

〒208-8501

武蔵村山市本町一丁目1番地の1

TEL 042(565)1111(代表)
